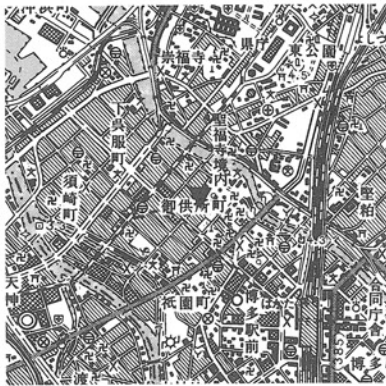


福岡・博多^{はかた}遺跡群

- 1 所在地 福岡市博多区上呉服町
- 2 調査期間 第二〇次調査B区 一九九九年(平11) 一二月
一〇〇〇年三月
- 3 発掘機関 福岡市教育委員会
- 4 調査担当者 大庭康時
- 5 遺跡の種類 都市跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代中期～現代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
博多遺跡群は、博多湾に面して形成された砂丘上に位置する複合遺跡である。遺跡群全体の時期は弥生時代中期から現代に及ぶが、古代末から中世にかけての対中国・朝鮮の貿易拠点として著名である。



(福岡)

今回の調査地点は、砂丘の東側縁辺部にあたり、古代には砂丘列間の低湿地で

あった。その後、一三世紀前半に人為的な埋め立てが行なわれ、一四世紀には聖福寺の塔頭の敷地となる。聖福寺は鎌倉時代初頭、宋から禅宗を携えて帰朝した栄西が、博多在住宋商人らの援助を得て創建した寺院である。前述の一三世紀前半の埋め立ては、聖福寺創建に関わる地業の可能性がある。

木簡は、埋め立て以前の湿地に堆積した砂層から二点出土した。

この層からは、流れ込んだ状態の人骨も出土しており、付近(おそらく南側)に葬地が営まれていたものと推測される。

木簡は、砂層の年代観から、一二世紀のものと推定している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「南无南无」

(127)×12×10 061

(2) 「南无阿」

(136)×21×2 061

(1)は、角柱の頭部を板碑状に削り出す。墨書は柱目の面に書かれているが、肉眼ではみえず、赤外線テレビカメラ装置で判読した。(2)は、柱目の薄い板材で、頭部を削り出して卒塔婆形に作る。墨書は肉眼ではほとんどみえず、墨書部分が盛り上がりつつみえるだけだが、赤外線テレビカメラ装置では若干墨痕が追える。「南无阿」までは確実に、次は不明瞭ながら「弥」であろう。その次は墨がみえない。その下の板に切れ目が入ってめくれている部分に、鮮明な墨

痕がみえ、字形から「如」と思われる。さらにもう一文字分の墨痕が残るが、漢字の払いの一部がみえるだけで、形はつかめない。以上から、本来は「南无阿弥陀如来」とあったと推測される。

9 関係文献

福岡市教育委員会『博多』八〇（福岡市埋蔵文化財調査報告書七〇六、二〇〇二年）

（大庭康時）



文化財写真に携わる人の必携マニュアル

『埋文写真研究』一六号

埋蔵文化財写真技術研究会編

巻頭言

特集 フィルムメーカーに聞く

画像処理一考

白黒フィルムISO感度

立面集合写真覚書Ⅱ—構成エレメント編—

仏像と写真

あなたが参考に使っている本は何ですか？

浅湫 毅・金井杜男
栗山 雅夫
今泉由紀子
他

在庫状況のお知らせ

頒価 一号～五号 品切れ 六号～八号 三五〇〇円

九号 三〇〇〇円 一〇号～一六号 三五〇〇円

送料 一冊～四冊 五〇〇円

五冊～一〇冊 一〇〇〇円 一一冊以上 無料

ご注文は、埋蔵文化財写真技術研究会まで直接お申し込みください。ご送金は郵便振替でお願いいたします。

宛先 千六三〇―八五七七 奈良市二条町二丁目九番一号

奈良文化財研究所気付 埋蔵文化財写真技術研究会

電話 〇七四二―三〇―六八三八

郵便振替 口座番号 〇一〇五〇―九一九九三〇

埋蔵文化財写真技術研究会

ホームページ <http://www.maishaken.jp/>